

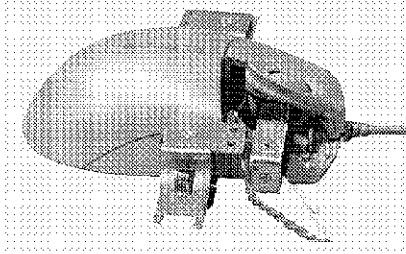
## パソコン操作

# ファイルの大きさ「実感」

## 阪大など 重み伝える新マウス

大阪大学などの研究チームはパソコンを操作するマウスに「ブレーキ」の機能を備え、アイコン（絵文字）に触れたときに手応えを感じたり、動かそうとするファイルの大きさを「重み」で実感できる仕組みを開発した。パソコンの操作感覚に臨場感を与える装置として実用化を目指す。

開発したのは阪大の左藤宏介教授と立命館大学の



手応えを感じさせる装置を付けたマウスの試作品

の木村朝子助教ら。返すので探しやすい。

マウスを動かしてアイコンに触れると「コッソ」という感じがして軽く止まる。またファイルのマウスでつかんで動かすと、ファイルの大きさに対応する「重さ」が感じられ、いちいち画面を開いて確認しなくても大体の大きさが分かる。文中から特定の語句や段落を検索する時も、新型マウスはその位置で軽く止まるような手応えをみ込んだ。

回転軸に鉄の棒を使い、電磁石の中に入れて間に磁性流体を満たした。電流を流すと、磁石と磁性流体の作用で軸が回転しにくくなる。電流

を瞬間的に流すとホイールの回転が軽く止まるような手応えが生じ継続的に流すと回転が重くなる。機構は一移角程度で「安価でマウスの中に組み込むことも可能」と研究チームはみている。アイコンなどに触れると振動するマウスはすでにありが、今回の装置はより現実に近い感覚を再現できると研究チームは今後の企業パートナーを探し実用化の道を探りたいとしている。